

大方美香先生に 「エピソード記録と園内カンファレンス」についてご指導いただきました。

平成25年12月16日、大阪総合保育大学大学院において「エピソード記録と園内カンファレンス」について、同大学院教授大方美香先生に指導いただきました。永福保育園、なかすじ保育園、西乳児保育所、南乳児保育所、東乳児保育所の5園が参加し、事前に各園においてカンファレンスしてきた内容を先生に見ていただき、アドバイスしていただきました。当日、参加できなかった園についても先生にアドバイスしていただき、その内容を各園に返しました。

その中で、共通する同じような場面と思われる事例を2例紹介します。

年齢の発達にあった保育士のかかわりと環境を！ ～事例① 1歳児 ブロック遊び～

保育室でブロック遊びをしていた時のこと。
YちゃんがRちゃんにおもちゃを取られて泣いてしまう。
Yちゃんは泣くだけでなく取り返そうとし、取り合いになる。
私「Yちゃん」
名前を呼んだのと同じくらいに、KくんがYちゃんの取られたブロックと同じブロックを持ってきて渡す。
K「どうぞ」
その行動により、Yちゃんはすぐに泣き止み遊び始めた。
近くでGくんがブロックを積んで遊んでいた。近くにやって来たTくん。
T「Tも入れて！Tもしていい？」
G「いいよ」
それを見ていたKくん、Yちゃん、Rちゃん。
K「kもする！」
Y「Yもする！」
R「Rもする！」
みんなで同じことを言い合ったことがおもしろかったようで大笑いする5人。
一度Gくんが作っていたものをGくんが笑いながらつぶし、みんな高く積むことを楽しんで遊ぶ。
K「次Kがする」「次Yちゃんやで」
T「次Tがする」
誰が積むのか言い合いながら遊びは続いた。

<園内のカンファレンス>

- ◎Rちゃんがおもちゃを取ってしまったあとと保育士の対応は、注意はしなかったのか？声をかけなかったのはなぜ？
- ◎取り合いになった時にYちゃんの名前を呼んだのはなぜ？
- ◎KくんがYちゃんがなぜ泣いているのか状況を理解して同じブロックを渡したその行動からKくんの心の成長がわかり驚かされる。
- ◎Yちゃんにブロックを渡したKくんへの声かけはなかった？
- ◎Kくんがブロックを渡しYちゃんは泣きやんだが、その後のRちゃんの行動はどのようなだったのか？
- ◎子どもたち同士で言葉のやりとりをしながら順番を決めたりしていっしょに何かを作ったり壊したりして楽しく遊ぶことができるんだと思った。
- ◎子どもたちの言葉が書いてあるのでひとりの遊びが次々に広がった光景がよくわかる。楽しそうに遊んでいる様子が見えた。
- ◎子どもたちの遊びの様子がもう少し具体的に（どんな風に積んだのか、どのくらい続いたのか、終わった時の子どもたちの表情など）書いてあればよかった。
- ◎保育士はどこにおいてこの様子を見ていたのか
- ◎1歳児が自分のことだけを考えるのではなく、他の人のことも思いやれる心が育っているのを感じた。
- ◎子ども同士で遊びを発展させた姿に集団の中で育つものも多くあると思った。

大方先生カンファレンス

1歳児の発達として考えた時、「友達におもちゃを譲る」「貸してあげる」行為を「思いやりの心が育っている」「優しい子ども」ととらえるのはどうか？
1歳児はまだまだ、自己を主張する段階。子どもが大人の評価を気にしていないか？

- ◎Rは、おもちゃをとって得をした。おもちゃをとられたのはYちゃん。ここではYちゃんではなく、Rちゃんの名前を呼ぶべきではないか？Rちゃんはどうなったのか？
- ◎Kは「心のやさしい子」と評価してしまいがちだが、1歳児の発達としてどうなのか？まだまだ、自分のことで精いっぱい、自分を主張することの方が大事。大人の顔色を見て気を使っている。大人の評価を気にしている。そういう価値観をつくってしまっていないか？
- ◎上部と下部とふたつのエピソードが書かれている。
- ◎下部は、1歳児の姿として、「いっしょ

- に」を楽しんでいる。
- ◎Gは、わざとつぶしたのか？うけをねらったのか？自分で作ったものをつぶすこと＝みんなに分けようとしたのか？いっしょに続きを作るのではなく、分けるということはどうなのか？
- ◎1歳児はまだみんなのものというより、自分のものが大事。自分で満足して遊べる環境を整えることが必要。自分のもの、自分の居場所があることで安心できる。
- ◎Yの思いからズレているから泣く。Yの気持ちが伝わっていない。思いを受け止めることが大切ではないか？

- <乳児の保育>
- ◎特に1～2歳は、重要。早くに社会性を身につけさせるのではなく、大人にもらった経験が3～5歳の自主性や主体性や社会性につながる。早くに要求を抑えてしまうのはよくない。自己主張するべき時期。
- ◎トラブルが増える時期でもあるが、一人ひとりが遊びに夢中になっているか？自分なりに目的をもって遊べているか？子どもをしっかり見てみる必要がある。

遊びに夢中になっているか？
満足して遊べる環境を！
安心できる居場所を！

「保育のねらい」
育てたい力は何か？何を経験させたいのか？を明確にもつ
～事例② 2歳児 散歩の場面で～

〇〇公園へ出かけ、木の実・葉っぱなどを拾って歩く。赤や黄、茶色になった葉っぱや、どんぐり、しいの実、まつぼっくりなどが落ちていて、子どもたちが、「あった～！！」と言いながら拾っている。もみじの木の下へ来ると赤や黄のもみじの葉っぱが落ちていて、Tが、
T「♪～赤い葉っぱ 黄色い葉っぱ 鬼さんこちら～♪」と歌いながら私を見た。
私「ほんまやなあ。赤い葉っぱ、黄色い葉っぱあるなあ」と言うと、
T「もみじやで！！」と言う。
私「なんで これもみじって知っとたん？」と聞くと、
T「そんなん知っとるわ！！」と言う。そこへIがやって来て、I「ほら見て～ これバナナみたい！！」と細長い黄色い葉っぱを見せてくれた。よく見ると、茶色がポツポツと点になって模様になっていて、よく熟したバナナのような見た目。
私「ほんまやなあ～ おいしいそう～！！」と言うと、I「食べたらかんで！！葉っぱやで！！」と言ったので、Iと顔を見あわせて笑った。

＜園内のカンファレンス＞

- ◎どういう思いで散歩に出かけたのか…ということも書いておくとよいのでは…。
- ◎他の葉っぱも知らせてあげられたらよかったのでは…。（いろんな形、色など）
- ◎Tといっしょに歌を歌ってもよかったのでは…。
- ◎他児にもバナナみたいな葉っぱを見つけたことを広げてもよかった。
- ◎その場で広げる時間や瞬間がなかったなら、その葉っぱを持ち帰り、改めてみんなにIの発見を知らせてもよかったのではないか。せっかくのIの発見をその場で終わらせてしまった。
- ◎カンファレンスしたあと、次からは子どもの言葉、つぶやきに対してすぐに言葉を返すのではなく子どもに問いかけるような言葉をかけようと気をつけるようになった。
- ◎2歳児ならではの「見立て」ができていますので、遊びの中にみたて・つもり遊びを取り入れていきたいと感じた。

大方先生カンファレンス



保育士がどれだけ子どもの姿をイメージして保育できるか？
何を育てたいか？保育士がねらいを持って保育することで、保育は広がっていく。

- ◎11月の月案を立てる時にみたて遊びが始まるかな？とイメージできているか。
- ◎何のために散歩に行くのか？ねらいは？保育士の思いをもって散歩に行く。
- ◎いつもと違う環境に出会って育つことがある。
- ◎Tは、色でなくもみじに反応。赤いはっぱ⇒赤ならわかる。形容詞は分かかっておらず、単語として理解している。…だからTはもみじと言った。
- ◎Iは、葉っぱをバナナにみたてた→これを大切に。ものを見てイメージする力が育っている。
- ◎親へ⇒みたてられるようになった、

- 育っていることを伝える。子どものつぶやきをよく聞いてあげると言える。
- ◎「食べたらかんで」⇒Iくんは認知力が育っている。
- ◎他の子はイメージできているか？TとIだけでなく、次につなげる。葉っぱを見せてふくらませていく。
- ◎ひとりがしていることをとりいれて保育につなげていく。子どもの言葉に材料がある。
- ◎繰り返すことでイメージする力を育てる、広げる。
- ◎新聞をちぎって「何に見える？」と遊

- んでもよい。
- ◎育てたいことは何か？を考えると保育すると広がる。どれだけ保育士が子どもの姿をイメージして保育ができるか？
- ＜みたてられる力⇒はっぱひろい＞
- ・形集め…実、葉っぱ（大きい、小さい）
- ・色集め…赤、黄拾おう
- ・名称…もみじ、いちようなど
- ・みたて…バナナみたい、かいじゅうみたい
- 感触…はっぱのカサカサする音（足で踏んだら？）

公開保育

岡田保育園・岡田小学校の連携活動の公開を実施しました

「チャレンジ！段ボールバス作り」



平成26年2月10日(月)10時40分～12時 岡田保育園の遊戯室において、岡田小学校1年生(13名)と岡田保育園年長児きりん組(13名)が連携活動を実施し、市内各園より25名の参加がありました。今回も、鳴門教育大学大学院教授 木下光二氏を講師としてお迎えし、指導・助言をいただきました。今年9月の台風18号で大きな被害を受け、その時失ってしまったバスを作りたいと子ども達から声があがり、1年生にも手伝ってもらおうと連携活動を重ね、今回が3回目の取り組みでした。簡単には壊れない丈夫なバスを作ろうと、段ボールを重ねて貼りつけたり、段ボールの椅子の中に新聞紙や段ボールの切れ端を詰め込んだり…工夫して作る姿がみられました。途中で担任の先生から、ガムテープの貼り方やペアで協力して作るよう言葉かけもあり、より一層意識して、力を合わせて段ボールバスを作り上げていきました。今回で屋根の途中まで完成した段ボールバス。振り返りの中で、「屋根を付けて暗くなったから窓をつけよう」「ハンドル、ワイパー、マフラーもつけたい」などの意見も出て、今後の活動をさらに楽しみにしている1年生・年長児でした。

～木下先生コメントより～

どのような子どもに育てたいのか

やらされる⇒やりたくなる あそばされる⇒あそびたくなる
集める⇒集まる 言われたことをやる⇒言われなくてもやる



<担任より>

◎今回は「丈夫にしよう」ということを目標に取り組んだ。どうすればそれが出来るのか考えて、子ども同士で気付き合ったりする姿も見られよかった。
 ◎1年生と年長児と力を合わせて…という部分では、自分のことに集中してしまい、ペアの子のことまで気が回らない様子も見られた。
 しかし、失敗に気付くことが次へのステップにつながると考えている。



<他園からの感想・質問>

◎今回の活動の大きなねらいである「バスづくりを通して、かかわり・共同する力を育む」という部分が見えにくかった。
 ◎なぜ、この活動にしたのか、ねらいは何か、どういう流れで今回の計画が作られたのかがとても大事だと改めて気付いた。
 ◎力を合わせないとバスを作り上げられない状況の中で、1年生と年長児と一緒に取り組むことの意味、保小の連携の重要性を感じた。



<木下先生コメント>

◎前回(味噌汁の活動)よりも子どもたちが交わって遊べており、交流活動としてはすごくよかった。
 ◎1年生が玄関に見えた時、「1年生が来たよ～」と言ってしまった。言わなくていい。自分たちで見つけて、迎えに行く自然な姿が見えるとよい。
 ◎ものがあふれていると工夫しなくなる。適度な環境が大事。
 ◎どんな子どもに育てたいのか？(言われたことをやるのか、やりたいことをやるのか)そのために活動をどうつくるか？を考える必要がある。子ども達は、本当に丈夫にしたかったのだろうか？「作りましょう」「工夫しましょう」で活動するのではなく、夢中になってつくる子どもに育ててほしい。

～木下先生コメントより～

集める保育から集まる保育へ

(保育士主導の保育から子ども主体の保育への転換)

平成26年2月10日(月)午後からは、岡田保育園、八雲保育園、やまもも保育園、東保育所の4か園で振り返りと意見交換会を実施しました。各園の現状や子ども主体の保育を進めていく上での悩みや葛藤などを率直に出し合い、木下教授のアドバイスをいただきながら、今までの活動の振り返り、そして今後の方向性を見出す有意義な時間になりました。

<子どもの主体性について>

◎自動性=自ら動く(本当にやりたくてそれをしてるのか?)が1つの目安。先生に言われるからするのではなく、あれこれ自分で考えるのが主体性。
 ◎今回の連携活動では、遊びをつくるのではなく「バスを作っていた」。遊びをつくるのが大事。そこに、小学校とは違う良さがある。保育園は、やりたいことを自分で決められるからいい。やりたい気持ちを育てるのが保育園である。
 ◎やらされているのではなく、やりたい気持ちを育てる。
 ◎子どもを集めているのか、子どもの意思で集まっているのかがキーワード。
 ◎子どもが遊びをつくっているか？子どもが自ら遊びたくなる環境を整えることが大事。
 ◎自己発揮している笑顔と遊ばされている

笑顔の違いを見て欲しい。保育の質は笑顔の質に表れている。

<設定保育と自由遊び>

◎設定保育と自由遊びの割合は、2:8あるいは3:7くらいがよい。10割自由ではない。設定がいけないのではなく、自分で選ぶことが大切。
 ◎子どもが「今日、〇〇して遊びたい」「行きたい」と思って登園してくる。だから、朝の時間に自由に遊ぶ。夢中になって遊ぶには、1時間から1時間半が必要。設定保育は20~30分。
 ◎日替わりの保育ではなく、つながる保育を。

<保育のリーダー>

◎子どもと保育士の関係は、リーダー(保育を引っ張っていく人)と保育士の関係と同じ。子どもと同じように、保育士にも主体性を。まずは、お互い思いを出し合える関係を土台に、園全体で1つの方向に進ん

でいけるチームワークが大切。

◎保育士もいいところを見つけ合い、認め合うことで、お互いの主体性を尊重し合うことができる。

<記録について>

◎月に1回でもエピソード記録を読み合い、考察をする。
 ◎本当の保育のあり方を教えてくれるのは目の前にいる“子ども”。子どもをしっかり見る、記録する。
 ◎書きたくなるような遊びがあることが大事。
 ◎保育の研究として(園内で)、保育場面をビデオに撮り、同じ場面を見て保育士間で考察する。



参加者のアンケートより

◎1年生との交流は何回もされていて保育園の子どもたちも1年生や学校の先生に慣れ親しんでいるのがよくわかった。
◎1年生と年長児がよく交わっていたのは、これまでからの積み重ねがあったのだろうと感じた。
◎段ボールで作る！大人でもわくわくする内容。普段の保育の中にこんな大掛かりな材料（段ボール）を使って遊びを取り入れていることにびっくり。
◎バスを「作る」ことにねらいが集中してしまっていたのではないか。今回の連携活動で一番育てほしい力はきっと

「上手に作る」とか「丈夫に作る」とかではなかったのでないか。木下先生がよく言われるこの連携活動で「どんな子どもを育てたいか、育ててほしい力は何か」をもう一度考える機会をいただいた。
◎「くつつかなくてもいい」「できあがらなくてもいい」「こわれてもいい」まずは、子どもが夢中になって楽しめることが大切！木下先生の言葉がとても心に響いた。
◎普段の保育について見つめ直すいいきっかけとなった。何かをする時、準備をしすぎたり、子ども同士のけんかなどすぐ仲裁

に入ってしまう子どもの思いや考えをつみとってしまっているのかもしれないと思った。
◎これから様々な園で保小連携が活発になっていけばいいと感じた。
◎「どんな子どもに育ててほしいのか」という保育士の願いの大切さを痛感した。そのためにどう活動をつくりあげるか、どう援助するのが保育士の力量になってくる。やはり、子ども達は夢中になって遊ぶ中で発見し、それが言葉として伝えたいなどということを確認した。保小連携だけでなく保育全部にかかわることだと感じた。

「プロジェクト型保育」 中保育所において公開保育を実施しました

平成26年3月7日（金）10時～12時30分 中保育所において「プロジェクト型保育」の公開保育を実施し、市内各園より28名の参加がありました。0～2歳の乳児は各お部屋で各年齢の発達に合わせたおもちゃ等で好きな遊びを楽しむ姿を見ていただき、2～5歳児の幼児は、今子ども達が興味・関心を持っている遊びが遊戯室やお部屋などいろいろなところで展開されているところを見ていただきました。公開保育とその講評については、神戸大学大学院准教授 北野幸子先生にご指導いただきました。

保育のポイント・見どころ

保育の見学の前には、中保育所主任より参加者に保育のポイント等について説明していただきました。

<乳児>

◎保育者との愛着関係がしっかりでき、安定した人間関係のもとで、安心・安定してすごせる居場所づくりを大切に保育をすすめてきた。

◎子どもの発達課題をしっかり把握し、子ども主体の保育を考えてきた。乳児にとって大切な自我の表出、自分の気持ちをどれだけ出して大人に受け止めてもらっているかが、子どもの主体性につながることを学び、実感している。

◎0歳児は月齢に合わせて粗大遊び、微細遊びの環境を準備し、子どもが好きな遊びを見つけて遊べるように保育士と一緒に遊んだり、関わったりする。

◎1歳児は、身のまわりのことに興味を持ち、友達の真似をしたり、同じことをしようしたり、自分でやってみようと意欲的な姿がある。

◎2歳児は、何でも「自分で」と自己主張し、思い通りにならないとすねたり、保育士の言葉がけで気持ちを立て直したりする姿がある。幼児の遊びに参加し、大きいクラスの子に憧れの気持ちを持ち、自分もやりたいという気持ちを育つよう支える。

<幼児>

◎朝夕の遊びの時間や給食、散歩、コーナー遊びを3歳～5歳が一緒に楽しんできた。その中で、同年齢の活動の中では見つけにくかった子どもの姿（年下の子を気遣う姿、お互いの良いところに気付くなど）や憧れの気持ちを持ち育ち合う姿が見られた。

◎今回の遊びは日々の生活や遊びの中から子どもたちが興味・関心を持ったトピックを中心に構成している。

◎劇遊びは、各クラスがプロジェクト型保育として取り組んできた内容を、異年齢で再現するという新たなプロジェクトに広がってきている。

◎今までの遊びの中から子どもの姿をイメージし、各年齢ごとの子どもに育てたい力（ねらい）を持ち、ねらいを達成するための保育士のかかわりや環境構成を日案に書いた。

◎ドキュメンテーションは、さまざまな形式で書く工夫をしてきた。子どもが夢中になっている活動や、友達とのかかわりなど、保護者にリアルタイムで伝えられる。保育士の振り返りにもなり、これからの保育の見通しを持つことが大事と気付いた。

公開保育～乳児～



<担任より>

◎0歳…月齢差が大きいため、粗大あそびや微細あそびなど発達に応じたあそびを設定した。好きな保育士とゆったり関わられるよう配慮した。

～北野先生コメントより～

「〇〇だから〇〇なんだ」と思いながらみる

構造化してものごとをみる＝「どうしてそうなるのか」を考える思考を！

◎1歳…身辺自立へ向けて自信がついてきた。友達の名前を保育士に伝えるなど、友達を意識する姿がみられる。指先を使ったあそびを中心に楽しんだ。

◎2歳…おもちゃから友達に関心が向いてきた。見立てあそびやごっこあそびが盛んになり、ままごとコーナーへと発展していった。異年齢あそびでは大きい子たちのしていることに興味を持ち、3歳児の劇ごっこに参加する姿もみられた。

<北野先生より>

◎能動的受容＝子どもを理解し、子どもの意図、要望、次の姿を予測し、期待を持つ見守り、受容をしていく。

◎トラブルあった時に対応でなく、心の安定、行動、表情、言葉から「〇〇だから〇〇なんだ」と思いながらみる訓練をすることで、考えて受容できるようになる。

◎理由と一緒に子どもの行動を見る。



公開保育～幼児～

～北野先生コメントより～

子どもが何をしたいか？してほしいか？何が好きなのか？

子どもの意図・要望を見取り、環境設定・空間づくりをしていく

【劇遊びコーナー】



<担任より>

◎発表会終了後、子ども達の声により設定した。他クラスの劇にたのしんで参加する姿が見られる。ストーリーがよくわかるように事前に絵本など読んでおけばよかった。先を見通した援助の必要性を感じている。

<北野先生より>

◎発表会がゴールになっていると、発展しないことが多い。後の発展に子どもが発表会をどうとらえているかが見える。
◎今回の劇あそびには、連続性、日常性がある。他のクラスの子とも達にあこがれが育っている。あこがれを持つと子ども

もの能力伸がびる。

◎ちゃんとできるのがよいのではなく、小さくてセリフ言えない子、したいと思ってるけどできないでいる子たちには、先生が少しモデルを示し発達を促していく。

◎音楽は歩き方や場面を考えた選択、構成になっている。この構成を工夫した結果、どういう育ちがあったか評価するとよい。

◎5歳児は音楽に合わせて体を使い、リズムに合わせて動いているが、年齢の小さい子たちは難しい。先生がモデルになり、いっしょにするなどして体で音楽を感じるようにするとよい。



【ドッチボール】



<担任より>

◎4・5歳を中心に取り組んでいる。異年齢にすることでトラブルがあったり、ルールを守れないなどの課題もある。

<北野先生より>

◎ボールを投げる力、受ける力、5歳の運動能力が育っている。
◎下の子との能力の差やケガが心配。小さい子への配慮が必要である。大きい子へのあこがれ、それぞれ利点があるが、圧倒的な力の差があると成立しにくい。

～北野先生コメントより～

「次は～するであろう」「～なるであろう」と子どもの次の姿を予測する
予測できると教育的な意図、期待が持てる
教育的な意図を持つと関わり方も変わる、子どもも変わる



【お店屋さんごっこ】

<担任より>

◎店員さんとお客さんの役割ができ、楽しんでいる。お客さんが少ない事を解決しようと、移動販売をするなど工夫する姿も見られる。

<北野先生より>

◎子どもからの「カーテンをつけてほしい」という声を受け、「人には見えない所で裏方として作りたい」という気持ちを見取っているから、環境設定としての裏方の場が設定できた。

◎カーテンの色もよい。隠れて、陰でという要望の中味を理解しているから濃い色になったのだと思う。



【制作コーナー】

<担任より>

◎劇あそびの衣装作りをきっかけに小道具作りへと発展している。紙粘土を用意したことでパン屋さんのパン作りも楽しんでいた。

<北野先生より>

◎製作コーナーをお店屋さんと連携させていくと発展していく。

◎素材を出すタイミング→先生が作って欲しいものを、すぐ出せるように前日に用意。製作している机よりちょっと距離のある所に材料をおくとよい。

◎素材が豊かであると表現も豊かになることは事実。あれもこれも出し過ぎないことが大事。

◎5歳の最後の時期に、今あるコーナーの合併などで、協同的学びの場面があるとよい。



【全体を通じて】

<北野先生より>

◎子どもの意図、要望をみとる。子どもは何をして欲しいか？どんなことが好きなのか、したいのだろうか。子どものしたいことを見取ってそれにこたえる環境設定、空間作りをしていく。

◎見取り具合が高いと環境設定も変わってくる。

◎子どもの次の姿を予測する。「～するであろう」「～になっていくであろう」と保育士が期待を持つ。予測がしっかりとできると、教育的な意図、期待がもてる。

「保育は教育」である。

◎保育士が教育的意図を持つと子どもに対する関わり方も変わり、子どもも変わる。

◎異年齢と年齢ごとの活動の発達課題を意識することが大切。

◎日々の生活、遊びの中で小さい設定が同時進行でどれだけできるかにより、子どもの育ちは大きくかわってくる。

◎今後は、日案、部分日案などの計画立案についても学んでいくとよい。



参加者からの質問・アンケートより

＜質疑応答＞

Q：見守りについて…放任でもなく、手のかけすぎ声のかけすぎにらないよう、保育していくにはどういうことに気をつけているか？

A：能動の見守りとは＝放任とは違う見守り。子どもの理解がないと能動の見守りはできない。能動の見守りを意識していく中で子ども達は伸びてきていると感じる。

Q：環境を作っていく上で、大切にされていることは何か？

A：設定の中でも子どもが自分で選択してできることを意識している。遊びの場所も子ども達が自分で遊びたいところを選ぶよう工夫したり、興味を持っていることを取り入れるよう意識している。

Q：記録をとるにあたり、苦勞、工夫している点は？

A：書き方、内容など工夫している途中。今は、日誌形式のドキュメンテーションに変え、子どもの言葉を青字、力をつけた部分を赤字で書くようにしている。保育士は、考えながら書くことで保育を振り返り、客観的に見れるようになってきた。

Q：好きなあそびの時間、設定の時間など、どのようなデイリーで保育されているのか？

A：プロジェクト保育に取り組む中で、子ども達自身がやりたいと思った遊びが続いていくと感じている。子ども達が「これをやりたい」と思って保育所へ来ることができるように、子ども達のしたい遊びの時間を朝に入れていくようにし

ている。

＜アンケートより＞

◎事前資料やポイント説明を聞いてから保育を見ることで各クラスやそれぞれの今日の日までの様子やねらい、つけたい力がよくわかった。

◎一人ひとりがやらされるのではなく、自分のやりたいことを選んで遊んでいる姿が伝わってきた。

◎製作コーナーでつくったものを劇遊びコーナーで使い、お店やさんでつくったものを映画館（劇遊び）で売り、それぞれのコーナーがつながっていると感じた。子どもたちが「こうしたい」という思いをくみ取って保育されていることも感じた。

◎乳児さんはそれぞれの発達に合わせて遊びが工夫されていてとても参考になった。

プロジェクト型保育 研修



～北野先生コメントより～

なぜ、その活動するのか？を書く
子どもが工夫しているところ、話し合っているところ、教え合っているところ…活動のプロセスを書く

平成26年3月7日(金)13時45分～16時30分 市役所413会議室にて、東山保育園・ルンビニ保育園・中保育所参加し、各園のドキュメンテーションと今年度の振り返りについて、神戸大学大学院准教授 北野幸子先生にご指導いただきました。

＜ドキュメンテーション＞

◎ドキュメンテーションの書きはじめにはどうしてその活動をするようになったのか、どんな工夫・援助をしたのかを書く。

◎このことが伝わると、ただ遊ばせているだけでないことが伝わる。この体験の意味がわかるような表現をする。

◎「こうだと思いました」「～ではないでしょうか」「子ども自身が育ちました」（保育士同士ではこう言ってもよいが）という表現ではなく、保護者に対して

は、「今この子には、こうすべきだからこうしました」と表現してもよい。



◎子どもが工夫しているところ、話し合っているところ、教え合っているところ、一緒に多人数でやっているような場面など、保護者が撮るスナップ写真とは違う写真がドキュメンテーションには必要。

例：スイートポテト作りイベントになりがちだが、子ども同士で作り方を教え合う姿、子の発想や学び、表現しているところをもっと発信するとよい。



例：劇あそびは、多くの保護者はセリフ通り言えたか、ちゃんとできたかだけを

評価しがちである。子どもがどう工夫し、どんなアレンジをしたか、どんな話し合いで子どもの力が育ったか、保護者にはプロセスはわからないので、そこをぜひ伝えて欲しい。

例：コマまわし

教え合いの写真ひもの長さをはかる、いろいろなコマのサイズ、種類で試し、どうやったらまわるかなど考えたり、発展させていくとよい。他の伝承あそびに広げていくこともできる。



◎多くの保護者の発想をこえたドキュメンテーションに！！

◎次のステップとして子ども達と一緒に作るドキュメンテーションを！

北野先生より

◎椅子に座って、折り紙を一斉の指導で折るような設定でなく…、発達の見取りの確認として（年齢ごとの経験させたい内容）の設定保育はある程度大切である。

◎設定、好きなあそび、プロジェクトどれであっても大事なのはスタート。なぜ、その活動にするのか、活動の理

由が大事。

◎その活動でどういう力をつけたいか（教育的意図）を持つことで、保育士の関わりも子どもも変わる。

◎先生主導が100%ダメではなく、本人が気付かないように先生が主導的にやる。特に導入の部分が大切。

◎一人ひとりが別々のことをやればよい

のではなく、このトピックスについて協同していく。協同する力が育っていると小学校でもしっかり話が聞けるようになる。

◎ほったらかしでなんでもやらせるのではなく、やりたいことができ、知りたいことを知ろうとする子の方が伸びる。